



BRIDGE

2013.12

中塚周一事務所
〒713-8125 倉敷市玉島勇崎930
TEL 086-528-0319
http://shuchan.com/
印刷 ㈱玉島活版所

第 7 号

県政報告

「競争力ある港へ！
水島港・玉島ハーバーアイランドの
発展戦略」

GIKAI KAIZEN 議会改善

「一問一答方式で
何が変わったか？」

「予算総括協議会とは？」

「地域公共政策セミナー
の開講」

「現場発信！
医療・福祉は
安心の要」

Next Generation

～次代へ～

「いいあいさつ」

皆様、こんにちは。岡山県議会議員の中塚周一です。平素より、県政活動にご理解とご指導をいただき、誠に有り難うございます。

さて、本年も私の県政報告誌BRIDGE(ブリッジ)を発刊させていただきました。本誌から、私の県政活動の一端でも知っていただくことができれば幸いです。2期目の任期も残り1年少々となりました。今後も、皆様のご意見を県政の場にしっかりと伝え、住みやすい岡山県に発展させていきたいと気持ちを持ちを新たにしています。

皆様の変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

岡山県議会議員 中塚 周一



GIKAI KAIZEN

議会改善

岡山県は、2012年の知事選挙においておよそ16年ぶりに新知事を迎えることになり岡山県の新たな歩みが期待されています。

議会においても、より「分かりやすく濃密な議論」の創出のための改善も図られています。ここではその内の「本会議での一問一答方式の導入」、「予算総括協議会の導入」、「地域公共政策セミナーの開講」を紹介しましょう。



「一問一答方式で何が変わったか？」

これまでの「一括質問一括答弁」という方法は、

ありませんでした。そこで2012年より一問一答方式が導入されました。

議員が質問したい項目を全て質問してから、知事をはじめとした県執行部から全ての項目に対して、知事、総務部長：教育長・・・と決められた順番で所管する部分を答弁していきます。質問の中には、いくつかの部署にまたがるものもあるのですが、一つの質問に対する答えを一度に聞けず、聞いている側が頭の中で答弁を整理しながら聞かなければなりません。

また、再質問も2度までしか認められていないため「もっと深く掘り下げたかった」ということも少なく

一問一答方式では、質問項目ごとに区切って、質問と答弁がされます。また、再質問も時間内であれば何回しても良いことになっています。そのため、聞いている側も内容を理解しやすくなったのではないかと思います。また、より深い議論がしやすくなったこともメリットの一つでしょう。

しかし一方で、どこまで掘り下げるか、時間の使い方をどうするかといった議員にも新たに求められるスキルが出てきたことも事実でしょう。

簡

単に言うとは国会の予算委員会のようなもの。

岡山県の予算協議は、本会

議に提出される前に各常任委員会へ予算案が示され何回にも分けて協議されています。いわゆる事前審査制というもので全国でも良い意味で珍しい方法です。しかし、これでも各常任委員会の所管する部分には関わりますが、全体的な考え方や争点になりそ

Q



「予算総括協議会とは？」

うな部分についても総括的に聞く必要があるということから「予算総括協議会」という新たな仕組みが2013年に導入されたのです。各会派の代表者によって質問されますが、私も先輩議員の統括的な質問のあと関連するものについて質問しましたが、ここでの質疑によって委員会での協議や本会議での審査にも大きな参考となりました。



Regional Public Policy Seminar



2012年から岡山県議会では「地域公共政策セミナー」を開講しています。岡山大学と連携して、主に法学、経済学系の先生にご協力をいただき県議会の全議員対象で実施しています。

これまで、「教育委員会」、「社会保障政策」、「労働政策」、「税制」、「地方議会と二元代表制」、「道州制」、「地域振興と活性化」等々、多岐にわたって講演をしていただくと同時に活発な質疑応答が行われています。

このセミナーによって、学識者の研究を通じた専門的知識を得ることができ貴重な機会となっています。また、一つの党の議員のみを対象にしているわけではないので、偏った見方、受け取り方は殆ど無いのではないのでしょうか。党派を超えて、同じ場所と同じ情報を聞くことは、県政の施策に対する見方や議会での議論などにおいて、濃密でスムーズなものとなる大きな助けになっていると感じます。

岡山県議会・地域公共政策セミナーの開講



▲地方議会について



▲道州制について



▲地域振興について



▲教育委員会について

Tamashima Harbar land



『競争力ある港へ！』

水島港・玉島ハーバーアイランドの発展戦略

伊原木知事は、「産業振興」や「教育県岡山の復活」などを主な政策の柱に掲げられています。私も県政の主な活動の一つに「たくましい産業の育成」を掲げています。交通の結節点としての優位性を活かし、水島港・玉島ハーバーアイランドの物流拠点としての整備と発展を目指し、環境にやさしい産業の構築と快速道路網の整備を推進していくことは、地元倉敷市だけでなくどまらず、岡山県の産業を活性化するためにも重要であると考えています。

Q



産業振興という点での活動はいかがですか？

水 島コンテナート企業の方や地元企業の皆さんから、課題や方向性など色々とお話を伺っています。そこから議会での質問で取り上げたり、日常の県政活動にも結びつけるようにしています。

2013年6月の議会でも、いくつか質問で取り上げましたが、知事も産業振興、とりわけ水島コンテナートには、強い思いがあり答弁にも力が入っていました。

水島港は、国際バルク戦略港湾の選定や地域活性化総合特区の指定がなされ、新たな展開が期待されています。水

島港は、他港よりも比較的小

さな投資で港湾環境整備が可能で投資効果も高いとされています。今後、陸揚げされた穀物を岸壁に隣接した場所

で加工等を行うことができることや、その効率性を高めることのできる施設整備や企業立地を進めていくことが必要とされます。また、玉島ハーバーアイランドなどに企業が立地を検討する際に、複数の企業が同様の設備が必要であるとした場合、県として設備投資のあり方も柔軟に検討すべきです。

このことについて知事からは、「今後の動向によっては、

玉島ハーバーアイランドでの新たな岸壁の整備や、関連企業の立地に向けた港湾計画の変更などについて検討を行っていく」。また、「岸壁の整備に関しては、2社以上になると公共性を帯びてくるので、県が整備する、または国に働きかけていく」という答弁をされました。

この答弁は、非常に積極的なものだと思っています。ただ「検討します」というものではなく、港湾計画の変更ですから、計画に載れば、それに沿って事業を動かしていくこととなります。実現性が高くなります。翌日の地方紙にも大きく載りましたから、その期待度は大きいと思います。

▼水島港国際コンテナターミナル



2013年(平成25年)6月22日 土曜日 第2全県版 28

全県版

水島港生かし企業誘致

港湾計画変更も検討

県議会
で知事
表明

6月定例会議は21日、一般質問を続行。中塚周一(自民、倉敷市・総務部)、三宅和広(民主・倉敷市・建設部)、山田一朗(公明、山田建設)の4人が質問。伊原木知事は「玉島港(倉敷市)の発展を企業誘致に生かすため、今後の動向に視点を絞る」と答えた。中塚氏は、水島港が工業用地約500万平方メートル、倉敷市が約100万平方メートル、合計約600万平方メートルの工業用地を有していることを指摘し、玉島港の発展を企業誘致に生かすため、今後の動向に視点を絞ることを求めた。伊原木知事は「玉島港の発展を企業誘致に生かすため、今後の動向に視点を絞る」と答えた。中塚氏は、水島港が工業用地約500万平方メートル、倉敷市が約100万平方メートル、合計約600万平方メートルの工業用地を有していることを指摘し、玉島港の発展を企業誘致に生かすため、今後の動向に視点を絞ることを求めた。伊原木知事は「玉島港の発展を企業誘致に生かすため、今後の動向に視点を絞る」と答えた。



現場発信！

「医療・福祉は安心の要」

Q ライフワークとする医療福祉についての取り組みや動きは？

医療・福祉は、県民が健康で安心して暮らしていくことのできる最も重要な分野です。2012年度は、保健福祉を所管する常任委員長をしましたが、医療機関、福祉事業所、専門職養成機関などを視察し、保健福祉行政

の参考とすることができました。視察先の中に『認知症介護研究・研修仙台センター』へも行きましたが、ここは、認知症介護実践者研修指導者を養成する機関なのですが、私もかつて1ヶ月半程度缶詰になって研修した場所です。ここは、特に思い入れがあつ

て選びました。勿論、ただ懐かしいからということではありません(笑)。東日本大震災の後、被災地では「認知症の方が増えた」とか「認知症患者のサポートが大きな問題になっている」等の情報があり、その研究や対応について聞きたかったということがあります。また、議員の皆さんにもより深く認知症ケアを理解してほしかったということもあります。



▲認知症介護研究研修仙台センター



▲かつてご教示いただいた先生方と

他にも、社会福祉関係振興議員連盟の事務局長という立場で、関係団体の皆さんとの意見交換会なども毎年実施しています。医療、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉など、医療福祉の様々な分野は、国の社会保障と税の一体改革で大きな動きがあり、今後の情勢を見極めながら県としても対応していかなければなりません。

社会保障(医療・介護・子育て)などの課題で国会、自民党本部で意見交換

5月30～31日、橋本がく衆議院議員の案内で国会、自民党本部を回り、社会保障・医療・介護・子育て支援、防災などについて意見交換した。

まず、高階恵美子参議院議員と会談。診療報酬、看護・介護、保育、障害者施策などについて意見交換した。高階恵美子議員は「日本は成熟社会となり、国民一人ひとりが楽しく、より豊かに、堂々と暮らせる社会を作ることが必要です。中塚さんも、私と同じ社会保障の分野の仕事をしてきたので、ともに力を合わせて国民、県民のためにがんばりましょう。」と話され、力強く握手を交わした。

次に、猪口邦子参議院議員(元少子化・男女共同参画大臣)と会談。少子化、安全保障、防災、災害復旧

などについて説明を受けた。猪口邦子議員は、「社会は移り変わりが速いので、国と地方議会がともに連携し、問題解決にすばやい対応が必要です。ともにがんばりましょう。」と語られた。



▲猪口邦子参議院議員と



▲高階恵美子参議院議員と



走りつづける中塚周一

明日の岡山「県民の安全・安心」のために

被災地視察

委員会の視察では、主に宮城県名取市の災害廃棄物処理施設を視察しました（平成24年7月）。被災地は、まだまだガレキ処理が進んでおらず、復興に進んでいるというよりも復旧すら未だできていない地区が多くあります。この名

取処理区でガレキ処理状況を見てきたわけですが、ここはJⅤ（共同企業体）が他地区よりも早く組織されたことで比較的、処理は早いとのことでした。私たちの地域においても、万が一の大規模災害により被災した場合、復旧を迅速に進めていくにはどうすればいいのか、その参考にもなります。



▲被災地がれき処理場



▲平泉文化遺産センター
世界遺産登録への取り組みについて聞く



▲災害廃棄物処理施設（名取処理区）



▲2012 ぎふ清流国体で選手団とともに入場行進



▲日本ガイシアリーナで名古屋市の教育・スポーツについて伺う

県政の問題に取り組み議会に、



「生の声」を届けました。

議会視察では、県外・県内各地に行くのですが、大きく二つの目的があります。ひとつは、先進的な取り組みをしているところを視察し、その取り組みを県内各所に取り入れることができないか参考にする。ふたつめは、現場の課題を直接見聞し、その課題解決に県が如何に関わり動くべきかということとを調査するためです。

ものづくりには「三現主義」という言葉があるそうですが、県政においても「現場」に足を運び、「現物」を手に取り確認し、「現実」をこの目で見て事実を知ることが大切です。更に加えて、そこから「実現」（課題解決）に持っていく方法を探るのです。



▲吹屋伝統的建造物群保存地区



▲旧吹屋小学校をはじめ吹屋伝統的建造物保存地区を訪れ、文化財の保護や活用について視察



▲湯原温泉病院
地域医療やリハビリの取り組みなど聞く



▲山田養蜂場
企業の環境に対する取り組みについて聞く



▲就実子ども園
認定子ども園の運営状況について調査



▲早島町地域活動支援センター
障害者の自立支援や社会活動について見聞

岡山の未来を創るため
I create the future of Okayama

8